NIE実践報告

1．タイトル：☆構えず、気楽に新聞活用―情報源としての新聞を身近なものに感じる時間を作る―

2．学校名

北海道吉田学園医療歯科専門学校

3．実践者名（代表者名）

門脇英敏

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

表現基礎　88人

6．単元（本時の学習課題）名

複数紙を読み比べ、扱いの違いを通して分析的に読める力を身につける。

7．目標（狙い）

・一つの事故を、全国紙と地方紙での扱いの違いや記事構成などを読み比べ、分析的に読めるようにする。
・複数紙を読み比べることの大切さとおもしろさに気づかせる。

8．評価の視点

・ワークシートに、事故記事の扱いの相違点を分析的にまとめられたか。
・殉職された方の顔写真や遺族のコメント取りなど、新聞記事の行間にあるものにまで思いを致したか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞の呼称、見出し、リード文、5W1Hなどの基礎的知識の理解（3）・複数紙の紙面全体構成（2）・コラム演習（3）・複数紙の読み比べ（2）・スピーチ（2）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①全国紙（朝日新聞・毎日新聞）と地方紙（北海道新聞）での、記事の扱いや見出しの大きさ、写真や図など、記事構成を比較し、読み手に与える効果と全国紙、地方紙の違いを考える。（1時間）
②火災事故を受けてのコラム（「卓上四季」）を書写、要約し、自分の意見をまとめる。（1時間）

（留意点）
三紙を比較し
・どの面で扱っているか。
・見出しとその印象。
・記事内容の構成工夫と比較して気づいたこと。
・自分にとってどの新聞記事がよかったか。また、その理由は何か。
・記事を読み、新聞記事の行間にあるものにまで思いを致したか。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・見出しの付け方や大きさで、事故の第一印象が大きく左右される。　・全国紙の地方版での扱いと、地方紙の一面での扱いで、全国紙と地方紙の違いを考えさせられた。　・殉職されたのだから、顔写真は「　さん」より、「　消防士長」の方がよい。　・悲しみの中でコメントを取る記者のご苦労が思われた。

12．成果と課題

・本校の教養講座で、NIE推進センター長藤井正友氏にご講演いただき、それを受けての本時「複数紙の読み比べ」であった。そのため、火災事故記事の行間にあるものにまで視点を広げ、分析的に読み取っていた。
・各実践において、個人作業だけでなく、グループ学習と発表を通して質疑応答から討論学習へと進展させる必要性を感じたが、その時間をどう確保するか。
・同じテーマの社説やコラムを読み比べ、主張の違いを読みとるまでの時間確保ができなかった。
・「気軽に新聞活用」を心掛けたが、年間講義で、新聞を資料として随時活用する工夫が必要であった。